

「パーティ」のもとのバージョン

新しいメンバー

ヒロを先頭にした一行は結婚式やセミナーなどが行われる大きな会場の前までやってきた。

「もうパーティは始まっていますよ」ヒロが嬉しそうに言った。

始まっているとはどういうことだろう。自分たちだけではないのだろうか。

「今日はみなさんが主役ですからね」

扉の前に立つ二人の正装したスタッフにヒロが声を掛けると、大きな扉が左右に開けられた。

照明の落とされた暗い室内に盛大な音楽と拍手が鳴り響く。

こちら向かってスポットライトが当てられている。まぶしさに目がくらんだ。

よく見ると大勢の人影が立ってこちらをみていた。200人はいるだろうか。

どこかの結婚式の会場を間違えて入ってしまったに違いない、とクミは思った。

でも確かにその拍手と視線はクミたち5人に向けられたものだった。

ヒロを先頭に人垣によって作られた通路を進む。なぜこんなに大勢が自分たちを祝福してくれているのか、まだ訳が分からない。

笑顔で拍手をし続ける人たちは、知らない人たちばかり。若い人もいれば年老いた人もいる。

クミはヒロが先に進んでしまうので、頭をペコペコ下げながら進んだ。

「さあ登って」

クミたちがステージに上がるとさらに拍手は大きくなった。理由が分からずに拍手をされると不安になるものだ。

ステージにいっせいにライトが当てられ、まぶしさに目を細めた。

音楽のボリュームが下げられ、司会の男性がマイクを通して話し出す。

「オレンジレッシンを卒業された、私たちの新しいメンバーにもう一度盛大な拍手を！」
場内が割れんばかりの拍手に満たされる。

そのアナウンスでやっと理解できた。この大勢が全員オレンジレッシンを卒業した人たちなのだ。5人はお互いに顔を見合わせた。

音楽が流れだし、クミたちの後ろのスクリーンにプロジェクターによって大きな映像が映し出された。

それに合わせてナレーションが入る。

「オレンジレッシンは幸せに成功するためにお互いをサポートしあうクラブです。世界中に点在し、日本には現在3つのグループがあり、メンバーは500人を超えています。

合計すると2000人以上の仲間が世界中にいます。

そもそもこの計画はハワイでの出会いから始まりました。

国籍の違う3人が旅の途中で出会いました。彼らの共通点は最高の成功を手にしたいたいと考えていたこと。面識がなかったからこそ気軽にお互いの人生を正直に語り合い、共感することが出来たのです。

3人は旅の途中、若くして引退した富豪のうわさを聞きその人物に教を請いに行きました。

その人物は3人にそれぞれの課題を与えました。彼らは見事にその課題をやり遂げ、レッスンを受ける資格を得ました。

そして、成功と幸せを同時に手に入れるための、新しい自分を発見する方法を学んだのです。

彼は学び終えた3人の生徒にその生き方を実践して、確信を得たならもう一度この地に来ると言いました。

そして3年後、学んだことを人生で実践し成功を収めた3人が懐かしいその地に集まりました。

その人物は死の床でそれを多くの人々に伝えてほしいという願いを託しました。もちろん3人は喜んでそれを約束しました。

こうして幸せに成功する生き方を世界に広めようという活動がひそかに始まりました。それがこの「オレンジレッスン」です」

3人のひとりであるヒロが紹介される。敬愛のこもった拍手で会場が満たされた。

「みなさんと久しぶりに会えましたね。僕はこれからもオレンジレッスンを続けますが、みなさんも学んだことを友達に話してあげてください。理解が深まるし、このよい波がたくさんの人に伝わるでしょう。

それによってやがて地球から戦争はなくなる日が来ると考えています。なぜなら、内側の戦争が外側の戦争を起こしているからです。内側の平和がなければ外側での真の平和は実現することが出来ません。

そのために、まずあなたが幸せに成功してください。あなたが幸せに成功するために、他の人の幸せな成功を応援してあげてください。

その道の途中で、あなたは何度も自分自身と和解していくことになるでしょう。ひとつであることを感じていくでしょう。その生き方が周りの人を気付かせていきます。

周りの人に手を差し伸べてください。ただし、誰かを救おうとか変えようとは思わないこと。手伝うためだけに手を差し伸べましょう。なぜなら救済されなければならない人は誰もいないからです。もし救わなければならないと感じたら、自分の心を見てみましょう。たぶんグレ子か、閉じ込められた子供のあなたが隠れているでしょう。どんどん幸せに成功するあなたになってください」

犬飼ターボ 「オレンジレッスン。」未公開シーン

ヒロに拍手が起こる。簡単な素晴らしいスピーチだった。

その後、オレンジレッスンを卒業したばかりの5人が一言ずつスピーチをした。

クミあまりにも緊張していたので何を話したのか自分でもよくわからなかった。ステージを降りてからもふわふわ雲上にいるようで、足が地に付いていないようだ。

たくさんの方がおめでとうとかよかったですねと声を掛けてくれた。名刺交換もしたが、あまりに多すぎて誰が誰だか分からない。みんなが「何かあったら手伝いますよ」と言ってくれた。主婦もいれば学生もいる。経営者も教授も作家もいた。